

病院の実力「呼吸器の病気」
医療機関別2014年治療実績
(読売新聞調べ)

医療機関名	数 COPDの入院患者 (人)	間質性肺炎・肺線維 症の入院患者数(人)	在宅酸素療法を採り 入れた患者数(人)
鳥取県			
鳥取大	12	37	3
島根県			
国・松江医療セ	273	473	38
島根大	100	20	30
松江市立	28	38	5
国・浜田医療セ	18	62	16
岡山県			
倉敷中央	244	451	228
川崎医大	150	69	13
岡山済生会総合	119%	72%	8
国・南岡山医療セ	62	40	44
岡山大	60	48	15
川崎医大川崎	33	35	16
倉敷市立児島市民	24	12	13
岡山労災	5	36	39
広島県			
県立広島	54	86	77
中国中央	45	103	28
市立広島市民	30	30	10
国・呉医療セ	29	73	68
国・福山医療セ	19	87	34
尾道市立市民	18	45	36
広島市立舟入市民	14	13	10
福山市民	12	33	28
マツダ	12	24	9
呉共済済海分院	12	13	6
広島大	10	92	58

「国・」は国立病院機構。「セ」はセンター。※「岡山済生会総合」は2013年実績。

喫煙で気管支に炎症

病院の実力

*広島編 88

*全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。

呼吸器の病気

今回の「病院の実力」は、呼吸器の病気を取り上げた。一覽表には、慢性閉塞性肺疾患（COPD）と間質性肺炎・肺線維症の入院患者数、在宅酸素療法を採り入れた患者数を掲載した。

COPDは、有害物質を吸い込んで気管支が炎症を起し、空気の通り道が狭くなる。さらに、酸素と二酸化炭素を交換するブドウの房のような形をした肺胞が傷んで壁が壊れ、空気をうまく吐き出せなくなる。原因のほとんどは喫煙だ。

間質性肺炎・肺線維症も肺胞の壁が厚く硬くなる線維化が進み、酸素と二酸化

炭素の交換ができにくくなる。膠原病など自己免疫疾患や薬の副作用、感染症などが引き金となるが、原因がわからないことが多い。いずれの治療も、喫煙している場合は禁煙し、服薬と運動、呼吸の訓練などを行う。症状悪化につながる風邪やインフルエンザなどの感染を防ぐことも大切だ。

肺の機能が低下し、血液中の酸素が不足して呼吸不全に陥る恐れがある。こうした患者の助けになるのが在宅酸素療法だ。

この療法には、①自宅では空気が酸素を取り出す酸素濃縮装置で吸入し、外出時は携帯用の酸素ボンベを使う方法②液体酸素から気化した酸素を吸入する方法がある。体に酸素が行き渡ること活動的になり、脳卒中や心筋梗塞などの合併症を防ぐことができる。

県立広島病院呼吸器内科 石川暢久部長に聞く



他の診療科との連携の大切さを説く石川部長（県立広島病院で）

合併症見極め治療選択

慢性閉塞性肺疾患（COPD）や間質性肺炎・肺線維症は、肺だけでなく全身に様々な病気を引き起こす可能性がある。県立広島病院（広島市南区）呼吸器内科の石川暢久部長（46）は「他の診療科などと連携して合併症などを見極め、それぞれに適切な治療を選択することが重要になる」と話す。（聞き手・池尻太一）

COPDは喫煙歴のある高齢者に多い疾患で、国内の患者数は約530万人に上るとされる。厚生労働省は2013年、生活習慣病予防の重点対象として、従来のがん、糖尿病、循環器疾患のほかに、新たにCOPDを加えた。せきやたん、呼吸困難などの症状が出るが、ほかの病気の可能性を除外しなければならぬ。X線画像検査やスパイロメトリーといった呼吸機能の検査で特定する。

COPDは、抑うつや糖尿病、骨粗しょう症などを併発していたり、ほかの肺疾患と合併症を起しているたりするなど、病気の状態が非常に複雑なため、診断や治療、リハビリには、他の診療科や薬剤師、看護師、理学療法士などとの連携が不可欠になる。

県立広島病院では、息が

苦しくなるなど急に症状が悪化して救急車で運び込まれる患者を多く受け入れている。当直に内科、循環器、神経など各科の医師が常駐し、併存症や合併症を迅速に判断している。入院中は投薬やリハビリだけでなく、栄養サポートチームも加わり、2週間以内で退院し、普段の生活に戻れるように努めている。

間質性肺炎・肺線維症も同様に、膠原病などの自己免疫疾患が引き金になっている場合は、リウマチ科と連携することになる。しかし、原因が不明の「特発性」が最も多い。特発性間質性肺炎は肺がんにも匹敵するほど予後が悪く、難病に指定されている。

従来は免疫抑制剤やステロイド剤の投与が効果を上げることがあるとされていたが、特発性肺線維症には抗線維化薬を積極的に投与している。

入退院を繰り返したり、重症化したりしても、できる限り普段の生活を送れるよう、患者自身が酸素吸入器を扱う在宅酸素療法が導入されている。県立広島病院では、特に遠方に住む患者の負担を軽減するため、禁煙が不可欠だ。

地域のかかりつけ医師との連携を強化している。発症すると完全に治癒する方法は現在はない。投薬で病気の進行を遅らせ、禁煙を始めとする生活習慣の改善や腹式呼吸のリハビリ訓練など、総合的な取り組みが欠かせない。予防には